

日本英学史学会中国・四国支部

ニューズレター

No.95

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

大正16年の『英語青年』

馬本 勉

平成から令和へ。祝賀ムードの中、元号が変わるのは生まれて初めてという人々がテレビのインタビューに答えている。私にとっては2度目の改元。平成最終日と令和初日を、心静かに迎えた。

英学史研究で年月日を扱うとき、西暦と元号との変換を頻繁に行う。1868年に始まる明治の場合、西暦から「67」を引いた下2桁が明治の年となる(太陽暦導入以前に生じるズレに、ここでは触れない)。それ以降、西暦から引く数値は、大正(1912~1926)は「11」、昭和(1926~1989)は「25」、平成(1989~2019)は「88」、そして令和(2019~)は「18」となる。各元年に当たる西暦年覚えておくだけでよい。その西暦の下2桁より1だけ少ないのが、上の引き算で用いるマジックナンバーである。

1つの西暦に2つの元号が当てはまれば、ときに困惑する。昭和は64年までであったが、64年間続いたわけではない。元年と64年は、わずか1週間であった。元号の初年と末年は、その期間にも注意したい。

手許に大正16年1月1日発行の『英語青年』第56巻第7号(総号第734号)がある。前後する号をまとめて入手した際、「大正は15年まででは!？」と驚いた。当時の『英語青年』は、発行が毎月1日と15日。次号第56巻第8号(第735号)は、昭和2年1月15日の発行とあり、そこで「ああ」と気づいた。昭和がスタートする1926年12月25日より前に734号は配付されたのだ。実際734号の表紙には、「大正15年12月16日納本」とあり、「12月16日印刷」と記された奥付の頁には「にひとしのもたらすさをさながらにきみがみうへにあれとこそいのれ」(大正16年元旦 岡倉由三郎)との歌も掲載された。昭和初号の735号巻末「片々録」では、「萬乗の君は、われらが國の柱、民の親、ひたすらに御安泰を祈って止まない。今夕本誌本號の編輯を終ふるに當り、來るべき春が國民の喜の春でもある事を切に希望しつつ、この祈願を捧げたまつる」と記したが、その項にのみ「大正15年12月17日」と添えた。翌736号(2月1日発行)は冒頭5頁を費やし、「The Nation in Mourning」の英文特集を組んでいる。大正から昭和へ、慌ただしい対応を迫られた編集の様子が推察される。

さて、その頃の『英語青年』は、題字や目次を含む第1ページが表紙を兼ね、本編と同じ薄い紙が使われている。各号36頁。英米作品の訳と解説、英語英文学に関する随想、英文和訳・和文英訳の解説、新刊紹介、学界の動向などが紹介された。第734号ではDavid Grayson, Thomas Gray, John Galsworthy, Eugene O'Neil, Edmund Blundenの一節を取り上げ、それぞれ平田禿木、福原麟太郎、澤村寅二郎、宮田義介、斎藤勇が訳と解説を施した。この号を含む第56巻は、1926年10月から1927年3月までの12号からなる。岡倉、福原、澤村が名を連ねたその全号に、奈倉次郎のWilliam Bryan 翻訳、細江逸記のSilas Marner 中の方言、武信由太郎「和文英訳練習欄」、大橋榮三「時事短評」も連載された。月2回の毎号に原稿を寄せる大家の筆力を思うとき、年に1度のこの欄に頭を抱えるわが身を恥ずかしく思う。

大正16年1月1日の「片々録」は、「大正十六年は兎の年である。本誌もまた長耳駿脚、英語英文學界のMercuryたるに反かぬ固い決心である」と書いた。署名者H生は、学界専門誌としての矜持をMercuryに込めたのだろうか。我らの学びがここにもある。(県立広島大学/日本英学史学会中国・四国支部副支部長)

日本英学史学会 中国・四国支部
令和元年度 総会・第1回(通算80回)研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、令和元年度支部総会、及び第1回(通算第80回)支部研究例会を下記の要領で開催いたします。今回の研究例会では、研究発表が2件予定されています。皆様お誘いあわせの上ご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。 敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

日時： 2019年5月25日(土) 12:30 受付開始
会場： 安田女子大学 1号館 1404 教室(4階)
〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東 6-13-1 TEL 090-1185-4814 (会場担当 松岡携帯)
参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会 (13:20~13:50)

議長選出、前年度活動報告・会計報告・会計監査報告、役員選出、新年度活動計画、他

開会行事 (14:00~14:05) 支部長挨拶

研究発表① (14:05~15:15)

「二羽の不死鳥 — 河合 茂と永原敏夫」 田中 正道 (広島大学名誉教授)

【概要】物資不足が極限に達した第二次世界大戦敗戦直後の国民生活の困窮ぶりを知る人は今では少なくなった。印刷用の紙もままならない中、広島高等師範学校ゆかりの2人の教育者が敗戦後8ヶ月あまりで中等学校第二、三学年の生徒ならびに英語独学者のための学習参考書をいち早く出版したことは驚異的と言える。本発表では、その『基礎英文法』にスポットを当て、すばやい「教育の復興」について話題提供を試みたい。
--

研究発表② (15:30~16:40)

「外来語の系譜」 松岡 博信 (安田女子大学)

【概要】現在の日本語における外来語のルーツは様々に異なる。しかしながら、私が教える学生のほとんどは、外来語のルーツを英語だと思っている。にも関わらず、英語では「グラス」なのに、日本語では何故「コップ」なのか分からない。「カップを聞き間違えたのではないか」という英語教師までいる。本発表では、江戸時代までの漢学、幕末の蘭学、そして英学はもちろんのこと、それ以外を通して日本に伝来したものも含む様々な外来語について考察する。さらに、ゲルマン祖語からの言語分岐およびゲルマン語にのみ生じた第一次子音推移(グリムの法則) およびノルマン征服や日韓併合にまで言及して、日本語のみならず世界の外来語の系譜を辿りたい。
--

閉会行事 (16:45~17:00) 副支部長挨拶、写真撮影

懇親会 (17:30~20:00)

とり楽 毘沙門店 (広島市安佐南区大町東 4-10-28 TEL 082-879-3166) 会費 3,500 円

【役員会の開催について】

支部総会に先立ち、11:30より役員会を開催します。正副支部長、理事の皆様はご参集ください。

会場への交通案内

(安田女子大学ホームページ <http://www.yasuda-u.ac.jp/> を参照)

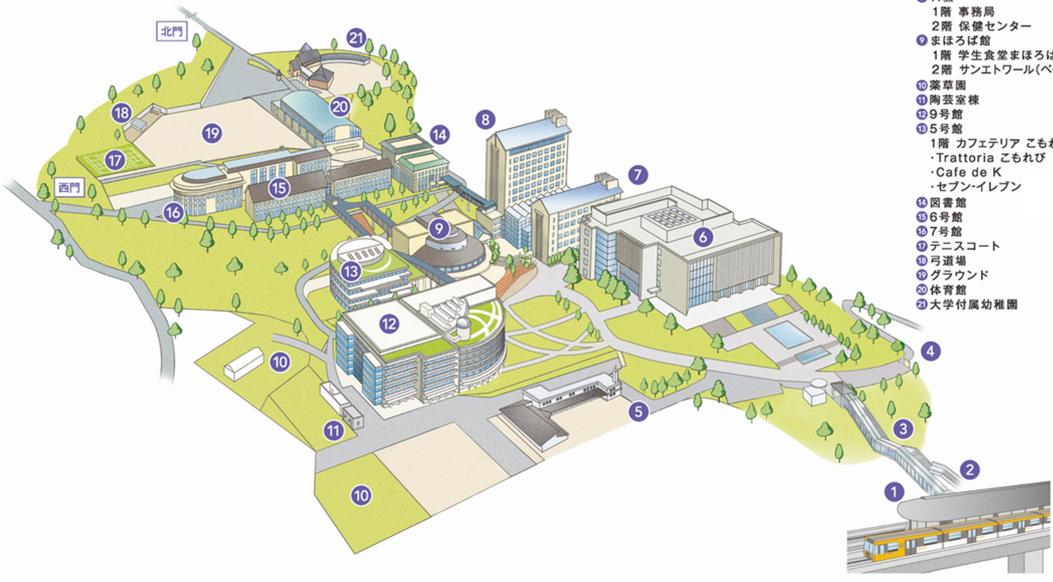


アストラムライン【安東駅】より
専用エスカレーターを利用, 徒歩約4分

アストラムライン (本通駅から)
【本通駅】～【安東駅】(22分)

JR 山陽本線 (広島駅から)
【JR 広島駅】～【JR 新白鳥駅】(2分)
アストラムラインに乗り換え
【新白鳥駅】～【安東駅】(18分)

安田女子大学キャンパスマップ



- ① アストラムライン安東駅
- ② Sophia(心理教育相談室・乳幼児子育て相談室)
- ③ 進学専用エスカレーター
(安東駅前～キャンバス)
- ④ 正門
- ⑤ クラブハウス
- ⑥ 1号館
1階 紀伊國屋書店
セブンイレブン
- ⑦ 2号館 事務局
- ⑧ 8号館
- ⑨ A棟
1階 事務局
2階 保健センター
- ⑩ まほろば館
1階 学生食堂まほろば
2階 サントワール(バーカリーカフェ)
- ⑪ 家庭園
- ⑫ 陶芸室棟
- ⑬ 9号館
- ⑭ 5号館
1階 カフェテリア こもれび
・Trattoria こもれび
・Cafe de K
・セブンイレブン
- ⑮ 図書館
- ⑯ 6号館
- ⑰ 7号館
- ⑱ テニスコート
- ⑲ 弓道場
- ⑳ グラウンド
- ㉑ 体育館
- ㉒ 大学付属幼稚園

会場の1号館は、上図6番の校舎です。アストラムライン安東駅からは、専用エスカレータ(3番)をご利用ください。

中国・四国支部ニュース

>> 事務局よりお知らせとお願い

●支部総会・研究例会・懇親会の出欠について、
5月25日(土)に開催される支部総会・研究例会・懇親会の出欠について、5月15日(水)までにお知らせください(本ページ末尾に記した事務局のメールアドレス、またはFAX番号までお願いいたします。) 配付資料の準備や、懇親会の予約のため、期日までのご回答をよろしくお願いいたします。

●名簿の改訂について

「会員登録確認票」をお届けします。変更のある方は5月22日(水)までに、事務局までお知らせください。

●会費の納入について

支部総会・研究例会へご出席の方は、令和元年度年会費(一般3,000円、学生2,000円)を当日の受付でお支払いください。その際に『英学史論叢』第22号、今年度の名簿をお渡しする予定です。

ご欠席の方へは、例会終了後に、『英学史論叢』、名簿とともに、年会費用の振替払込用紙をお送りします。恐れ入りますが、手数料のご負担をお願いいたします。

年会費を2年間未納の場合は「自然退会」となりますので、ご注意ください。

>> 松村幹男先生旧蔵書について

松村幹男先生の御遺族より、先生の御蔵書を会員の研究に役立てて欲しいとのお申し出をいただきました。第1回の研究例会時に書架の写真を閲覧するとともに、例会終了後に会員限定で閲覧可能としたウェブサイトに写真を掲載します。背文字のタイトルをご覧の上、利用希望を事務局までお知らせください。一定の受付期間を設け、その間に希望が重複した場合は抽選とし、着払いで事務局より発送します。ぜひご利用ください。

英学史情報ひろば

- ◇『へるん』第55号(八雲会, 2018年6月27日)
《追悼》(pp.80-86)
「風呂 鞏先生の思い出」(小泉 凡)
「風呂さんを偲んで」(丹沢栄一)
「姿・形は見えねど、魂は永遠なり」(鉄森令子)
「風呂 鞏先生執筆目録『へるん』誌」

- ◇『北陸英学史研究』第13輯(日本英学史学会北陸支部, 2018年10月16日)
- ◇『関西英学史研究』第11号(日本英学史学会関西支部, 2019年2月1日)
「訳述英文法書における品詞分類についての一考察」(佐古敏子) ほか
- ◇森 悟『評伝 佐川春水』(今井出版, 2019年4月19日)
- ◇『英語教育』第68巻第2号(2019年5月号)(大修館書店, 2019年5月1日)
《特集》平成30年間の英語教育を振り返る
「教員の『学び』をめぐる『現場』の30年」(河村和也)
「グローバル化に揺れた平成の英語教育」(江利川春雄)
- ◇日本英語教育史学会第35回全国大会
令和元年5月18日(土)・19日(日)
神奈川大学横浜キャンパスにて
*中国・四国支部会員の登壇するプログラム
《シンポジウム》(5月18日)
「初代会長・出来成訓先生の人と業績を語る」
竹中 龍範(元香川大学教授) ほか3名
《研究発表》(5月19日)
「英単語集に関する研究: 中国・台湾と日本の高校生用英単語集の比較を中心に」
安部 規子(久留米工業高等専門学校)
*日本英語教育史学会ウェブサイト <http://hiset.jp>

広島英学史の周辺(61) 松村先生の書架には、書籍以外に膨大な数のファイルとカードが遺されています。人物や年代などのタイトルが太い文字で記された背表紙が、そこかしこに並びます。例えば「桜井 役」と書かれた幅広のクリアファイル。そこには桜井の名著『日本英語教育史稿』(1936)に関連した様々な文献や、松村先生の自筆原稿のコピーが詰まっています。資料を集め、論文としてまとめる道筋の一端を、そのファイルは教えてくれているようです。こうした背表紙の数々も、例会時に写真でご覧いただきたいと思います。(馬)

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.95

2019年5月5日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中 龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: 0824-74-1725(研究室直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.95 May 5, 2019